

紀要第2号の発刊に寄せて

島根職業能力開発短期大学校「紀要」第2号をお届けします。

第1号発刊の1998年から17年となりますが、島根職業能力開発短期大学校（以下、短大校）における地域企業・事業主団体等と連携した共同研究や教育・訓練活動における実践的な課題及び総合制作実習などを含め、本短大校の教職員の教育訓練活動及び研究の成果を17年ぶりに発刊できましたことは大変うれしいことでもあります。第2号発刊を基に、継続して発刊できるようにすることをお誓い致します。

紀要の発刊は、感性を持った「**実践技術者**」の育成、学生が全国にチャレンジする競技会への参加、地域企業の方々と連携した総合制作や受託・共同研究等々、教育訓練の日常の成果を含めた教職員の職業能力開発実践研究成果を地域の企業・事業主団体等、地域の方々に本短大校の教育訓練に関する研究活動を十分ご理解して頂くことを目的に行われるものであります。

企業の製造現場では、「**ものづくりのデジタル化やモジュール化**」が進められており、生産や組立てなどの工程は新興国の企業に安価で委託できるようになって来ています。このような時代であればこそ、「**必要とされ、求められる人材**」は、ものづくりの生産活動を支える技能・技術を身につけた「**実践技術者**」であると確信しています。

本短大校では、一昨年より「**地入地就**」をスローガンに地元の高校生に入学してもらい、地元企業に就職させる活動を行っています。また、就職先の仕事内容をより明確にするため、今年度の2年生から「**コース制**」を取り入れています。学生にはそれ以上に、将来の長い人生を強く豊かに生きて行くための人間としての総合的な力である「**人間力**」を身につけてもらうことも学業以上に必要だと考えます。そのため、我々教職員も「**学生を導く指導力**」と「**熱い人間力**」を持ち合わせておくことが極めて重要であり、日ごろから教育訓練・研究における研鑽成果を公開、地域社会や産業界に広く発信し、その反応・疑問を受け入れ、さらなる「**共成**」（ともに成長する）を図ることこそ必要不可欠なことでもあります。

紀要発刊が本短大校における教職員の日常における実践記録について、ご理解いただければ、ありがたく思います。また、広く皆様方からのご意見やご批判を頂き、より機能性の高い短大校にしたいと思っています。

今後、本短大校と地域企業や各種機関の方々と連携した多くの成果が享受できるようになれば、幸いと思います。

2015年4月30日

独立行政法人高齢・障害・就職者雇用支援機構島根支部
中国職業能力開発大学校附属

島根職業能力開発短期大学校

校長 小岩屋 正文